



EIGRP の設定

この章では、Cisco NX-OS スイッチで Enhanced Interior Gateway Routing Protocol (EIGRP) を設定する方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [EIGRP に関する情報 \(1 ページ\)](#)
- [EIGRP の前提条件 \(8 ページ\)](#)
- [注意事項と制約事項 \(8 ページ\)](#)
- [デフォルト設定 \(9 ページ\)](#)
- [基本的な EIGRP の設定 \(10 ページ\)](#)
- [高度な EIGRP の設定 \(14 ページ\)](#)
- [EIGRP の仮想化の設定 \(27 ページ\)](#)
- [EIGRP の設定の確認 \(29 ページ\)](#)
- [EIGRP 統計情報の表示 \(30 ページ\)](#)
- [EIGRP の設定例 \(30 ページ\)](#)
- [関連項目 \(30 ページ\)](#)
- [その他の参考資料 \(31 ページ\)](#)

EIGRP に関する情報

EIGRP は、リンクステートプロトコルの機能にディスタンス ベクトル プロトコルの利点を組み合わせたプロトコルです。EIGRP は、定期的に Hello メッセージを送信してネイバーを探索します。EIGRP は、新規ネイバーを検出すると、すべてのローカル EIGRP ルートおよびルート メトリックに対する 1 回限りの更新を送信します。受信側の EIGRP ルータは、受信したメトリックと、その新規ネイバーにローカルで割り当てられたリンクのコストに基づいて、ルート ディスタンスを計算します。この最初の全面的なルート テーブルの更新後は、ルート変更の影響を受けるネイバーにのみ、差分更新が EIGRP により送信されます。この処理により、コンバージェンスにかかる時間が短縮され、EIGRP が使用する帯域幅が最小限になります。

EIGRP コンポーネント

EIGRP には、次の基本コンポーネントがあります。

- Reliable Transport Protocol
- ネイバー探索およびネイバー回復
- 拡散更新アルゴリズム

信頼性の高いトランスポート プロトコル

信頼性の高いトランスポート プロトコルは、すべてのネイバーに EIGRP パケットの順序付けされた配信を保証します。(「[ネイバー探索およびネイバー回復](#)」の項を参照してください。)
信頼性の高いトランスポート プロトコルは、マルチキャスト パケットとユニキャスト パケットの混合伝送をサポートしています。この転送は信頼性が高く、未確認パケットが保留されているときにも、マルチキャストパケットの迅速な送信が可能です。この方式により、さまざまな速度のリンクでも短いコンバージェンス時間が維持されるようになります。マルチキャストおよびユニキャストパケットの送信を制御するデフォルトタイマーの変更の詳細については、「[高度な EIGRP の構成](#)」を参照してください。

Reliable Transport Protocol には、次のメッセージ タイプが含まれます。

- **Hello** : ネイバー探索およびネイバー回復に使用されます。EIGRP はデフォルトでは、定期的なマルチキャスト Hello メッセージをローカル ネットワーク上に、設定された hello 間隔で送信します。デフォルトの hello 間隔は 5 秒です。
- **Acknowledgement** : 更新、照会、返信を確実に受信したことを確認します。
- **Updates** : ルーティング情報が変更されると、その影響を受けるネイバーに送信されます。更新には、ルート宛先、アドレス マスク、および遅延や帯域幅などのルート メトリックが含まれます。更新情報は EIGRP トポロジ テーブルに格納されます。
- **Queries and Replies** : 必要に応じて、EIGRP が使用する DUAL の一部として送信されます。

ネイバー探索およびネイバー回復

EIGRP は、Reliable Transport Protocol からの Hello メッセージを使用して、直接接続されたネットワーク上のネイバー EIGRP ルータを探索します。EIGRP により、ネイバー テーブルにネイバーが追加されます。ネイバー テーブルの情報には、ネイバー アドレス、検出されたインターフェイス、およびネイバー到達不能を宣言する前に EIGRP が待機する時間を示すホールド タイムが含まれています。デフォルトのホールド タイムは、hello 間隔の 3 倍または 15 秒です。

EIGRP は、ローカル EIGRP ルーティング情報を共有するために、一連の更新メッセージを新規ネイバーに送信します。このルート情報は EIGRP トポロジ テーブルに格納されます。このように EIGRP ルート情報全体を最初に送信した後は、ルーティングが変更されたときのみ、EIGRP により更新メッセージが送信されます。これらの更新メッセージは新情報または更新情

報のみを含んでおり、変更の影響を受けるネイバーにのみ送信されます。「[EIGRP ルートアップデート](#)」の項を参照してください。

EIGRP はまた、Hello メッセージをネイバーへのキープアライブのためにも使用します。Hello メッセージを受信している限り、Cisco NX-OS は、ネイバーがダウンせずに機能していると判定します。

拡散更新アルゴリズム

拡散更新アルゴリズム (DUAL) により、トポロジテーブルの宛先ネットワークに基づいてルーティング情報が計算されます。トポロジテーブルには、次の情報が含まれます。

- IPv4 アドレス/マスク：この宛先のネットワーク アドレスおよびネットワーク マスク。
- サクセサ：現在のフィジブルディスタンスよりも宛先まで短いディスタンスをアドバタイズする、すべてのフィジブルサクセサまたはネイバーの IP アドレスおよびローカルインターフェイス接続。
- フィージビリティディスタンス (FD)：計算された、宛先までの最短ディスタンス。フィジブルディスタンスは、ネイバーがアドバタイズした距離に、そのネイバーへのリンクコストを加えた合計です。

DUAL は、ディスタンス メトリックを使用して、ループが発生しない効率的なパスを選択します。DUAL はルートを選択し、フィジブルサクセサに基づいてユニキャストルーティング情報ベース (RIB) に挿入します。トポロジが変更されると、DUAL は、トポロジテーブルでフィジブルサクセサを探します。フィジブルサクセサが見つかった場合、DUAL は、最短のフィジブルディスタンスを持つフィジブルサクセサを選択して、それをユニキャスト RIB に挿入します。これにより、再計算が不要となります。

フィジブルサクセサが存在しないが、宛先をアドバタイズするネイバーが存在する場合は、DUAL がパッシブ状態からアクティブ状態へと移行し、新しいサクセサまたは宛先へのネクストホップルータを決定する再計算をトリガーします。ルートの再計算に必要な時間は、コンバージェンス時間に影響します。EIGRP は照会メッセージをすべてのネイバーに送信し、フィジブルサクセサを探します。フィジブルサクセサを持つネイバーは、その情報を含む返信メッセージを送信します。フィジブルサクセサを持たないネイバーは、DUAL の再計算をトリガーします。

EIGRP ルート更新

トポロジが変更されると、EIGRP は、変更されたルーティング情報のみを含む更新メッセージに影響を受けるネイバーに送信します。更新メッセージには、新規の、または更新されたネットワーク宛先へのディスタンス情報が含まれます。

EIGRP でのディスタンス情報は、帯域幅、遅延、負荷使用状況、リンクの信頼性などの使用可能なルートメトリックの組み合わせとして表現されます。各メトリックには重みが関連付けられており、これにより、メトリックがディスタンスの計算に含まれるかどうかが決まります。このメトリックの重みは設定することができます。特性を微調整して最適なパスを完成するこ

ともできますが、設定可能なメトリックの大部分でデフォルト設定を使用することを推奨します。

内部ルート メトリック

内部ルートとは、同じ EIGRP 自律システム内のネイバー間のルートです。これらのルートには、次のメトリックがあります。

- ネクスト ホップ：ネクスト ホップ ルータの IP アドレス。
- 遅延：宛先ネットワークへのルートを形成するインターフェイス上で設定された遅延の合計。10 マイクロ秒単位で設定されます。
- 帯域幅：宛先へのルートの一部であるインターフェイスで設定された最小帯域幅から計算されます。



(注) デフォルト帯域幅の値の使用を推奨します。この帯域幅パラメータは EIGRP でも使用されます。

- MTU：宛先へのルート上の最大伝送単位の最小値。
- ホップカウント：宛先までにルートが通過するホップまたはルータの数。このメトリックは、DUAL 計算で直接には使用されません。
- 信頼性：宛先までのリンクの信頼性を示します。
- 負荷：宛先までのリンク上のトラフィック量を示します。

デフォルトで EIGRP は、帯域幅と遅延のメトリックを使用して、宛先までのディスタンスを計算します。計算に他のメトリックが含まれるように、メトリックの重みを変更できます。

外部ルート メトリック

外部ルートとは、異なる EIGRP 自律システムにあるネイバー間のルートです。これらのルートには、次のメトリックがあります。

- ネクスト ホップ：ネクスト ホップ ルータの IP アドレス。
- ルータ ID：このルートを EIGRP に再配布したルータのルータ ID。
- AS 番号：宛先の自律システムの番号。
- プロトコル ID：宛先へのルートを学習したルーティング プロトコルを表すコード。
- タグ：ルート マップで使用可能な任意のタグ。
- メトリック：外部ルーティング プロトコルの、このルートのルート メトリック。

EIGRP とユニキャスト RIB

EIGRP は、すべての学習したルートを EIGRP トポロジテーブルとユニキャスト RIB に追加します。トポロジが変更されると、EIGRP は、これらのルートを使用してフィジブル サクセサを探します。EIGRP は、他のルーティングプロトコルから EIGRP に再配布されたあらゆるルートの変更についてのユニキャスト RIB からの通知も待ち受けます。

高度な EIGRP

EIGRP の高度な機能を使用して、EIGRP の設定を最適化できます。

アドレス ファミリ

EIGRP は、IPv4 アドレス ファミリをサポートします。

アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードには、次の EIGRP 機能が含まれます。

- 認証
- AS 番号
- デフォルト ルート
- メトリック
- ディスタンス
- グレースフル リスタート
- ロギング
- ロード バランシング
- 再分配
- ルータ ID
- スタブ ルータ
- タイマー

複数のコンフィギュレーションモードで同じ機能を設定できません。たとえばルータコンフィギュレーションモードでデフォルトメトリックを設定すると、アドレスファミリモードでデフォルトメトリックを設定できません。

認証

EIGRP メッセージに認証を設定することで、ネットワークでの不正なルーティング更新や無効なルーティング更新を防止できます。EIGRP 認証は MD5 認証ダイジェストをサポートしています。

認証キーのキーチェーン管理を使用して、仮想ルーティング/転送（VRF）インスタンスごと、またはインターフェイスごとに EIGRP 認証を設定できます。キーチェーン管理を使用すると、MD5 認証ダイジェストが使用する認証キーへの変更を管理できます。

MD5 認証を行うには、ローカル ルータとすべてのリモート EIGRP ネイバーで同一のパスワードを設定します。EIGRP メッセージが作成されると、Cisco NX-OS は、そのメッセージ自体と暗号化されたパスワードに基づいて MD5 一方方向メッセージダイジェストを作成し、このダイジェストを EIGRP メッセージとともに送信します。受信する EIGRP ネイバーは、同じ暗号化パスワードを使用して、このダイジェストを確認します。メッセージが変更されていない場合は計算が同一であるため、EIGRP メッセージは有効と見なされます。

MD5 認証には各 EIGRP メッセージのシーケンス番号も含まれており、これにより、ネットワークでのメッセージの再送が防止されます。

スタブ ルータ

EIGRP スタブ ルーティング機能を使用すると、ネットワークの安定性の向上、リソース使用量の削減、スタブ ルータ設定の簡易化を実現できます。スタブ ルータは、リモート ルータ経由で EIGRP ネットワークに接続します。「[スタブ ルーティング](#)」の項を参照してください。

EIGRP スタブ ルーティングを使用すると、EIGRP を使用するように配布とリモート ルータを設定し、リモート ルータのみをスタブ として設定する必要があります。EIGRP スタブ ルーティングで、分散 ルータでの集約が自動的にイネーブルになるわけではありません。ほとんどの場合、分散 ルータでの集約の設定が必要です。

EIGRP スタブ ルーティングを使用しない場合は、分散 ルータからリモート ルータに送信されたルートがフィルタリングまたは集約された後でも、問題が発生することがあります。たとえば、ルートが企業ネットワーク内のどこかで失われた場合に、EIGRP が分散 ルータに照会を送信することがあります。分散 ルータは、ルートが集約されている場合でも、リモート ルータに照会を送信することがあります。分散 ルータとリモート ルータの間の WAN リンク上の通信に問題が発生した場合は、EIGRP がアクティブ状態のままとなり、ネットワークの他の場所が不安定となる場合があります。EIGRP スタブ ルーティングを使用すると、リモート ルータに照会が送信されなくなります。

ルート集約

指定したインターフェイスにサマリー集約アドレスを設定できます。ルート集約を使用すると、固有性の強い一連のアドレスをすべての固有アドレスを代表する 1 つのアドレスに置き換えることによって、ルート テーブルを簡素化できます。たとえば、10.1.1.0/24、10.1.2.0/24、および 10.1.3.0/24 というアドレスを 1 つの集約アドレス 10.1.0.0/16 に置き換えることができます。

より具体的なアドレスがルーティング テーブルにある場合、EIGRP は、より具体的なルートの最小メトリックに等しいメトリックを持つインターフェイスからの集約アドレスをアドバタイズします。



(注) EIGRP は、自動ルート集約をサポートしていません。

ルートの再配布

EIGRP を使用して、ダイレクトルート、スタティックルート、他の EIGRP 自律システムから学習したルート、または他のプロトコルからのルートを再配布できます。再配布を含むルートマップを設定して、どのルートが EIGRP に渡されるかを制御します。ルートマップを使用すると、宛先、送信元プロトコル、ルートタイプ、ルートタグなどの属性に基づいて、ルートをフィルタリングできます。[Route Policy Manager の設定](#)を参照してください。

インポートされた EIGRP へのすべてのルートに使用されるデフォルトメトリックも設定できます。

ロードバランシング

ロードバランシングを使用すると、ルータは、宛先アドレスから等距離内にあるすべてのルータのネットワークポートにトラフィックを分散できます。ロードバランシングにより、ネットワークセグメントの使用率が向上し、それによってネットワーク帯域幅の効率も向上します。

Cisco NX-OS は、等コストマルチパス (ECMP) 機能をサポートします。EIGRP ルートテーブルおよびユニキャスト RIB の等コストパスは最大 16 です。これらのパスの一部または全部に対してトラフィックのロードバランスを行うよう、EIGRP を設定できます。



(注) Cisco NX-OS の EIGRP は、等コストでないロードバランシングはサポートしていません。

Split Horizon

スプリットホライズンを使用すると、ルートを学習したインターフェイスから EIGRP がルートをアドバタイズしないようにできます。

スプリットホライズンは、EIGRP 更新パケットおよび EIGRP 照会パケットの送信を制御する方式です。インターフェイスでスプリットホライズンをイネーブルにすると、Cisco NX-OS は、このインターフェイスから学習された宛先への更新パケットも照会パケットも送信しません。この方法でアップデートパケットとクエリーパケットを制御すると、ルーティングループが発生する可能性が低くなります。

ポイズンリバーによるスプリットホライズンにより、EIGRP は、EIGRP がルートを学習したインターフェイス経由で、そのルートを到達不能としてアドバタイズするよう設定されます。

EIGRP は、次のシナリオでスプリットホライズン、またはポイズンリバーによるスプリットホライズンを使用します。

- スタートアップモードで、2 台のルータ間で初めてトポロジテーブルを交換する。
- トポロジテーブルの変更をアドバタイズする。
- 照会メッセージを送信する。

デフォルトでは、スプリットホライズン機能がすべてのインターフェイスでイネーブルになっています。

仮想化のサポート

Cisco NX-OSは、同一システム上で動作する複数のEIGRPプロトコルインスタンスをサポートします。EIGRPは、仮想ルーティングおよび転送（VRF）インスタンスをサポートしています。デフォルトでは、特に別のVRFを設定しない限り、Cisco NX-OSはユーザーをデフォルトのVRFに配置します。「[レイヤ3 仮想化の構成](#)」を参照してください

デフォルトでは、すべてのインスタンスが同じシステム ルータ ID を使用します。インスタンスごとに一意のルータ ID を設定することもできます。

EIGRP の前提条件

EIGRP を使用するには、次の前提条件を満たしている必要があります。

- EIGRP 機能をイネーブルにする必要があります（[EIGRP 機能のイネーブル化](#)を参照）。

注意事項と制約事項

EIGRP 設定時の注意事項および制約事項は次のとおりです。

- 他のプロトコル、接続されたルータ、またはスタティックルートからの再配布には、メトリック設定（デフォルトメトリック設定オプションまたはルートマップによる）が必要です（[Route Policy Manager の設定](#)を参照）。
- グレースフルスタートについては、NSF 認識ルータが動作中であり、ネットワークで完全に収束している場合にのみ、このルータが NSF 対応ルータのグレースフルリスタート動作を支援できます。
- グレースフルリスタートについては、グレースフルリスタートに関係する隣接スイッチが NSF 認識、または NSF 対応である必要があります。
- Cisco NX-OS の EIGRP は Cisco IOS ソフトウェアの EIGRP と互換性があります。
- 妥当な理由がない限り、メトリックの重みを変更しないでください。メトリックの重みを変更した場合は、同じ自律システム内のすべての EIGRP ルータに、それを適用する必要があります。
- 大規模ネットワークの場合は、スタブの使用を検討してください。
- EIGRP ベクトルメトリックは維持されないため、異なる EIGRP 自律システム間での再配布は避けてください。
- `no ip next-hop-self` コマンドは、ネクストホップの到達可能性を保証しません。
- `ip passive-interface eigrp` コマンドを使用すると、ネイバーが形成されなくなります。

- Cisco NX-OS は IGRP も、IGRP および EIGRP クラウドの接続もサポートしていません。
- 自動集約は、デフォルトではイネーブルにされていません。
- Cisco NX-OS は IP のみをサポートします。



(注) Cisco IOS の CLI に慣れている場合、この機能に対応する Cisco NX-OS コマンドは通常使用する Cisco IOS コマンドと異なる場合がありますので注意してください。

デフォルト設定

次のテーブルは、各 EIGRP パラメータに対するデフォルト設定を示します。

表 1: テーブル 6-1 デフォルト EIGRP パラメータ

パラメータ	デフォルト
アドミニストレーティブ ディスタンス	• 内部ルート : 90 • 外部ルート : 170
帯域幅の割合	50%
再配布されたルートのデフォルトのメトリック	• bandwidth : 100000 kbps • delay : 100 (10 マイクロ秒単位) • reliability : 255 • loading : 1 • MTU : 1500
EIGRP 機能	ディセーブル
hello 間隔	5 秒
Hold time	15 秒
等コスト パス	8
メトリック重み	1 0 1 0 0
アドバタイズされたネクスト ホップ アドレス	ローカル インターフェイスの IP アドレス
NSF コンバージェンス時間	120

パラメータ	デフォルト
NSF ルート保留時間	240
NSF 信号送信時間	20
再分配	ディセーブル
スプリット ホライズン	有効 (Enabled)

基本的な EIGRP の設定

このセクションは、次のトピックで構成されています。

EIGRP 機能の有効化

EIGRP を設定するには、その前に EIGRP 機能をイネーブルにする必要があります。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **feature eigrp**
3. (任意) **show feature**
4. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	feature eigrp 例 : <pre>switch(config)# feature eigrp</pre>	EIGRP 機能を有効にします。
ステップ 3	(任意) show feature 例 : <pre>switch(config)# show feature</pre>	有効にされた機能に関する情報を表示し。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例 : switch(config)# copy running-config startup-config	この設定変更を保存します。

例

no feature eigrp コマンドを使用して、BFD 機能を無効にし、関連する構成をすべて削除します。

コマンド	目的
no feature eigrp 例 : switch(config)# no feature eigrp	EIGRP 機能をディセーブルにして、関連付けられたコンフィギュレーションをすべて削除します。

EIGRP インスタンスの作成

EIGRP インスタンスを作成して、そのインスタンスにインターフェイスを関連付けることができます。この EIGRP プロセスに一意の自律システム番号を割り当てます（「[自律システム](#)」の項を参照）。ルート再配布をイネーブルにしていない限り、他の自律システムからルートがアドバタイズされることも、受信されることもありません。

始める前に

EIGRP 機能を有効にしていることを確認します（[EIGRP 機能の有効化](#)のセクションを参照）。

EIGRP がルータ ID（設定済みのループバックアドレスなど）を入手可能であるか、またはルータ ID オプションを設定する必要があります。

AS 番号であると認められていないインスタンス タグを設定する場合は、AS 番号を明示的に設定する必要があります。そうしないと、この EIGRP インスタンスはシャットダウン状態のままになります。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **router eigrp instance-tag**
3. (任意) **autonomous-system as-number**
4. (任意) **log-adjacency-changes**
5. (任意) **log-neighbor-warnings [seconds]**
6. **interface interface-type slot/port**
7. **no switchport**
8. **ip router eigrp instance-tag**

9. **show ip eigrp interfaces**10. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	router eigrp instance-tag 例 : switch(config)# router eigrp Test1 switch(config-router)#	インスタンス タグを設定して、新しい EIGRP プロセスを作成します。インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。 AS 番号であると認められていない <i>instance-tag</i> を構成する場合は、 autonomous-system コマンドを使用して AS 番号を明示的に構成する必要があります。そうしないと、この EIGRP インスタンスはシャットダウン状態のままになります。
ステップ 3	(任意) autonomous-system as-number 例 : switch(config-router)# autonomous-system 33	この EIGRP インスタンスに一意の AS 番号を設定します。有効な範囲は 1 ～ 65535 です。
ステップ 4	(任意) log-adjacency-changes 例 : switch(config-router)# log-adjacency-changes	隣接関係の状態が変化するたびに、システム メッセージを生成します。このコマンドは、デフォルトでイネーブルになっています。
ステップ 5	(任意) log-neighbor-warnings [seconds] 例 : switch(config-router)# log-neighbor-warnings	ネイバーの警告が発生するたびに、システム メッセージを生成します。警告メッセージの時間間隔を、1 ～ 65535 の秒数で設定できます。デフォルトは 10 秒です。このコマンドは、デフォルトでイネーブルになっています。
ステップ 6	interface interface-type slot/port 例 : switch(config-router)# interface ethernet 1/2 switch(config-if)#	インターフェイス設定モードを開始します。? を使用すると、スロットおよびポートの範囲を確認できます。
ステップ 7	no switchport 例 :	そのインターフェイスを、レイヤ 3 ルーテッド インターフェイスとして設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<code>switch(config-if)# no switchport</code>	
ステップ 8	ip router eigrp instance-tag 例 : <code>switch(config-if)# ip router eigrp Test1</code>	このインターフェイスを、設定された EIGRP プロセスに関連付けます。インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。
ステップ 9	show ip eigrp interfaces 例 : <code>switch(config-if)# show ip eigrp interfaces</code>	EIGRP インターフェイスに関する情報を表示します。
ステップ 10	(任意) copy running-config startup-config 例 : <code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	この設定変更を保存します。

例

EIGRP プロセスと、関連付けられた設定を削除するには、**no router eigrp** コマンドを使用します。

コマンド	目的
no router eigrp instance-tag 例 : <code>switch(config)# no router eigrp Test1</code>	EIGRP プロセスと、関連付けられたすべての設定を削除します。



(注) EIGRP プロセスを削除する場合は、インターフェイス モードで設定された EIGRP コマンドも削除する必要があります。

次に、EIGRP プロセスを作成し、EIGRP のインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# router eigrp Test1
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip router eigrp Test1
switch(config-if)# no shutdown
switch(config-if)# copy running-config startup-config
```

その他の EIGRP パラメータの詳細については、[高度な EIGRP の設定](#)のセクションを参照してください。

EIGRP インスタンスの再起動

EIGRP インスタンスを再起動できます。再起動すると、インスタンスのすべてのネイバーが消去されます。

EIGRP インスタンスを再起動して、関連付けられたすべてのネイバーを削除するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
flush-routes 例 : <pre>switch(config)# flush-routes</pre>	この EIGRP インスタンスを再起動するときに、ユニキャスト RIB のすべての EIGRP ルートをフラッシュします。
restart eigrp instance-tag 例 : <pre>switch(config)# restart eigrp Test1</pre>	EIGRP インスタンスを再起動して、すべてのネイバーを削除します。インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。

EIGRP インスタンスのシャットダウン

EIGRP インスタンスを正常にシャットダウンできます。これにより、すべてのルートと隣接関係は移動しますが、EIGRP 設定は保持されます。

EIGRP インスタンスをディセーブルにするには、ルータ コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
shutdown 例 : <pre>switch(config-router)# shutdown</pre>	この EIGRP インスタンスをディセーブルにします。EIGRP ルータ設定は残ります。

高度な EIGRP の設定

このセクションは、次のトピックで構成されています。

EIGRP での認証の設定

EIGRP のネイバー間に認証を設定できます。「[認証 \(Authentication\)](#)」セクションを参照してください。

EIGRP プロセスまたは個々のインターフェイスに対応する EIGRP 認証を設定できます。インターフェイスの EIGRP 認証設定は、EIGRP プロセスレベルの認証設定よりも優先します。

始める前に

EIGRP 機能を有効にしていることを確認します（[EIGRP 機能の有効化](#)のセクションを参照）。

EIGRP プロセスのすべてのネイバーが、共有認証キーを含め、同じ認証設定を共有することを確認します。

この認証構成のためのキー チェーンを作成します。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **router eigrp instance-tag**
3. **address-family ipv4 unicast**
4. **authentication keychain keychain**
5. **authentication mode md5**
6. **interface interface-type slot/port**
7. **no switchport**
8. **ip router eigrp instance-tag**
9. **ip authentication keychain eigrp instance-tag keychain**
10. **ip authentication mode eigrp instance-tag md5**
11. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	router eigrp instance-tag 例： <pre>switch(config)# router eigrp Test1 switch(config-router)#</pre>	インスタンス タグを設定して、新しい EIGRP プロセスを作成します。インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。 AS 番号であると認められていない <i>instance-tag</i> を構成する場合は、 autonomous-system コマンドを使用して AS 番号を明示的に構成する必要があります。そうしないと、この EIGRP インスタンスはシャットダウン状態のままになります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	address-family ipv4 unicast 例 : <pre>switch(config-router)# address-family ipv4 unicast switch(config-router-af) #</pre>	アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを開始します。IPv4 の場合、このコマンドはオプションです。
ステップ 4	authentication keychain keychain 例 : <pre>switch(config-router-af) # authentication keychain routeKeys</pre>	この VRF の EIGRP プロセスにキーチェーンを関連付けます。キー チェーン名は、大文字と小文字が区別される 20 文字以下の任意の英数字文字列にできます。
ステップ 5	authentication mode md5 例 : <pre>switch(config-router-af) # authentication mode md5</pre>	この VRF の MD5 メッセージダイジェスト認証モードを設定します。
ステップ 6	interface interface-type slot/port 例 : <pre>switch(config-router-af) interface ethernet 1/2 switch(config-if) #</pre>	インターフェイス設定モードを開始します。? を使用すると、サポートされているインターフェイスを調べることができます。
ステップ 7	no switchport 例 : <pre>switch(config-if) # no switchport</pre>	そのインターフェイスを、レイヤ 3 ルーテッド インターフェイスとして設定します。
ステップ 8	ip router eigrp instance-tag 例 : <pre>switch(config-if) # ip router eigrp Test1</pre>	このインターフェイスを、設定された EIGRP プロセスに関連付けます。インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。
ステップ 9	ip authentication keychain eigrp instance-tag keychain 例 : <pre>switch(config-if) # ip authentication keychain eigrp Test1 routeKeys</pre>	このインターフェイスの EIGRP プロセスにキーチェーンを関連付けます。この設定は、ルータの VRF モードで設定された認証設定よりも優先します。 インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。
ステップ 10	ip authentication mode eigrp instance-tag md5 例 : <pre>switch(config-if) # ip authentication mode eigrp Test1 md5</pre>	このインターフェイスの MD5 メッセージダイジェスト認証モードを設定します。この設定は、ルータの VRF モードで設定された認証設定よりも優先します。 インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 11	copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。

例

次に、EIGRP の MD5 メッセージ ダイジェスト 認証をイーサネット インターフェイス 1/2 上で設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# router eigrp Test1
switch(config-router)# exit
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip router eigrp Test1
switch(config-if)# ip authentication keychain eigrp Test1 routeKeys
switch(config-if)# ip authentication mode eigrp Test1 md5
switch(config-if)# copy running-config startup-config
```

EIGRP スタブ ルーティングの設定

ルータで EIGRP スタブ ルーティングを設定するには、アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
stub [direct receive-only redistributed [direct] leak-map map-name] 例 : <pre>switch(config-router-af)# eigrp stub redistributed</pre>	リモート ルータを EIGRP スタブ ルータとして設定します。リークマップのマップネーム名は、構成されたルートマップを参照します。複数のオプションを一度に構成して、目的のスタブ ルータ機能を有効にすることができます。

次に、直接接続され、再配布されるルートをアドバタイズするスタブ ルータを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal

switch(config)# router eigrp Test1

switch(config-router)# address-family ipv4 unicast

switch(config-router-af)# stub direct redistributed

switch(config-router-af)# copy running-config startup-config
```

ルータがスタブ ルータとして設定されていることを確認するには、**show ip eigrp neighbor detail** コマンドを使用します。出力の最後の行は、リモート ルータまたはスポーク ルータのスタブ ステータスを示します。次に、**ip eigrp neighbor detail** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show ip eigrp neighbor detail
IP-EIGRP neighbors for process 201
H Address Interface Hold Uptime SRTT RTO Q Seq Type
(sec) (ms) Cnt Num
0 10.1.1.2 Se3/1 11 00:00:59 1 4500 0 7
Version 12.1/1.2, Retrans: 2, Retries: 0
Stub Peer Advertising ( CONNECTED SUMMARY) Routes
```

EIGRP のサマリー アドレスの設定

指定したインターフェイスにサマリー集約アドレスを設定できます。ルーティングテーブルに他にも個別のルートがある場合、EIGRPは、他の個別ルートすべての中で最小のメトリックと等しいメトリックで、サマリーアドレスをインターフェイスからアドバタイズします。「[ルート集約](#)」の項を参照してください。

サマリー集約アドレスを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
ip summary-address eigrp <i>instance-tag ip-prefix/length [</i> <i>distance leak-map map-name</i> <i>]</i> 例 : <pre>switch(config-if)# ip summary-address eigrp Test1 192.0.2.0/8</pre>	サマリー集約アドレスを、IP プレフィックス/長さとして設定します。インスタンスタグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。リークマップのマップネーム名は、構成されたルートマップを参照します。 また、この集約アドレスのアドミニストレーティブ ディスタンスを設定することもできます。集約アドレスのデフォルトアドミニストレーティブ ディスタンスは 5 です。 (注) EIGRP がすでに実行されている場合を除き、プレフィックス/長さ形式をアドレスマスクの代わりに使用して IP アドレスを設定することを推奨します。EIGRP インスタンスが起動する前にアドレスマスク形式を使用すると、後でサマリーアドレスを削除または変更できなくなります。

次に、EIGRP によりネットワーク 192.0.2.0 がイーサネット 1/2 のみに集約されるようにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip summary-address eigrp Test1 192.0.2.0 255.255.255.0
```

EIGRP へのルートの再配布

他のルーティング プロトコルから EIGRP にルートを再配布できます。

始める前に

EIGRP 機能を有効にしていることを確認します ([EIGRP 機能の有効化](#)のセクションを参照)。

他のプロトコルから再配布されるルートには、メトリック（デフォルト メトリック 設定オプションまたはルート マップによる）を設定する必要があります。

ルートマップを作成して、EIGRP に再配布されるルートのタイプを管理する必要があります。[Route Policy Manager の設定](#)を参照してください。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **router eigrp instance-tag**
3. **address-family ipv4 unicast**
4. **redistribute { bgp as | {eigrp | ospf | ospfv3 | rip} instance-tag | direct | static } route-map name**
5. **default-metric bandwidth delay reliability loading mtu**
6. **show ip eigrp route-map statistics redistribute**
7. （任意） **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	router eigrp instance-tag 例 : <pre>switch(config)# router eigrp Test1 switch(config-router)#</pre>	インスタンス タグを設定して、新しい EIGRP プロセスを作成します。インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。 AS 番号であると認められていない <i>instance-tag</i> を設定する場合は、 autonomous-system コマンドを使用して AS 番号を明示的に設定する必要があります。そうしないと、この EIGRP インスタンスはシャットダウン状態のままになります。
ステップ 3	address-family ipv4 unicast 例 : <pre>switch(config-router)# address-family ipv4 unicast switch(config-router-af)#</pre>	アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを開始します。IPv4 の場合、このコマンドはオプションです。
ステップ 4	redistribute { bgp as {eigrp ospf ospfv3 rip} instance-tag direct static } route-map name 例 : <pre>switch(config-router-af)# redistribute bgp 100 route-map BGPFilter</pre>	1 つのルーティング ドメインから EIGRP にルートを注入します。インスタンス タグおよびマップ名には最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字は区別されます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	default-metric bandwidth delay reliability loading mtu 例 : <pre>switch(config-router-af)# default-metric 500000 30 200 1 1500</pre>	ルート再配布で学習したルートに割り当てられるメトリックを設定します。デフォルト値は次のとおりです。 • bandwidth : 100000 kbps • delay : 100 (10 マイクロ秒単位) • reliability : 255 • loading : 1 • MTU : 1492
ステップ 6	show ip eigrp route-map statistics redistribute 例 : <pre>switch(config-router-af)# show ip eigrp route-map statistics redistribute bgp</pre>	EIGRP ルート マップ統計に関する情報を表示します。
ステップ 7	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。

例

次に、BGP を IPv4 向けの EIGRP に再配布する例を示します。

```
switch# configure terminal

switch(config)# router eigrp Test1

switch(config-router)# redistribute bgp 100 route-map BGPFilter

switch(config-router)# default-metric 500000 30 200 1 1500

switch(config-router)# copy running-config startup-config
```

再配布されるルート数の制限

ルートの再配布では、多くのルートを EIGRP ルート テーブルに追加できます。外部プロトコルから受け取るルートの数の上限を設定できます。EIGRP では、再配布されるルートの上限を設定するために次のオプションが用意されています。

- 上限固定 : EIGRP が設定された最大値に達すると、メッセージをログに記録します。EIGRP は、それ以上の再配布されたルートを受け入れません。しきい値を超えたときに EIGRP が警告をログに記録する、最大値のしきい値に対する割合を設定することもできます。

- 警告のみ：EIGRPが最大値に達したときのみ、警告のログを記録します。EIGRPは、再配布されたルートを受け入れ続けます。
 - 取り消し：EIGRPが最大値に達すると、タイムアウト期間が開始します。タイムアウト期間の経過後、再配布されたルートの現在数が最大数よりも少ない場合、EIGRPはすべての再配布されたルートを要求します。再配布されたルートの現在数が最大数に達した場合、EIGRPはすべての再配布されたルートを取り消します。EIGRPが再配布されたルートをさらに受け入れられるように、この条件をクリアする必要があります。
- 任意で、タイムアウト期間を設定できます。

始める前に

EIGRP機能を有効にしていることを確認します（[EIGRP機能の有効化](#)のセクションを参照）。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **router eigrp instance-tag**
3. **redistribute { bgp id | direct | eigrp id | ospf id | rip id | static } route-map map-name**
4. **redistribute maximum-prefix max [threshold] [warning-only | withdraw [num-retries timeout]]**
5. （任意） **show running-config eigrp**
6. （任意） **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	router eigrp instance-tag 例： <pre>switch(config)# router eigrp Test1 switch(config-router)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	redistribute { bgp id direct eigrp id ospf id rip id static } route-map map-name 例： <pre>switch(config-router)# redistribute bgp route-map FilterExternalBGP</pre>	設定したルートマップ経由で、選択したプロトコルを EIGRP に再配布します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	redistribute maximum-prefix <i>max</i> [<i>threshold</i>] [warning-only withdraw [<i>num-retries</i> <i>timeout</i>]] 例 : <pre>switch(config-router)# redistribute maximum-prefix 1000 75 warning-only</pre>	EIGRP が再配布するプレフィックスの最大数を指定します。指定できる範囲は 0 ～ 65536 です。任意で次のオプションを指定します。 • threshold : 警告メッセージをトリガする最大プレフィックスの割合。 • warning-only : プレフィックスの最大数を超えた場合に警告メッセージを記録します。 • withdraw : 再配布されたすべてのルートを取り消します。任意で再配布されたルートを取得しようと試みます。<i>num-retries</i> の範囲は 1 ～ 12 です。<i>timeout</i> は 60 ～ 600 秒です。デフォルトは 300 秒です。clear ip eigrp redistribution コマンドは、すべてのルートを取り消す場合に使用します。
ステップ 5	(任意) show running-config eigrp 例 : <pre>switch(config-router)# show running-config eigrp</pre>	EIGRP の設定を表示します。
ステップ 6	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config-router)# copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。

例

次に、EIGRP に再配布されるルート数を制限する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# router eigrp Test1
switch(config-router)# redistribute bgp route-map FilterExternalBGP
switch(config-router)# redistribute maximum-prefix 1000 75
```

EIGRP でのロードバランスの設定

EIGRP でのロードバランスを設定できます。最大パス オプションを使用して、ECMP ルートの数を設定できます。

始める前に

EIGRP 機能を有効にしていることを確認します ([EIGRP 機能の有効化](#)のセクションを参照)。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **router eigrp instance-tag**
3. **address-family ipv4 unicast**
4. **maximum-paths num-paths**
5. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	コンフィギュレーション モードに入ります。
ステップ 2	router eigrp instance-tag 例 : <pre>switch(config)# router eigrp Test1 switch(config-router)#</pre>	インスタンス タグを設定して、新しい EIGRP プロセスを作成します。インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。 AS 番号であると認められていない <i>instance-tag</i> を設定する場合は、autonomous-system コマンドを使用して AS 番号を明示的に設定する必要があります。そうしないと、この EIGRP インスタンスはシャットダウン状態のままになります。
ステップ 3	address-family ipv4 unicast 例 : <pre>switch(config-router)# address-family ipv4 unicast switch(config-router-af)#</pre>	アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードを開始します。IPv4 の場合、このコマンドはオプションです。
ステップ 4	maximum-paths num-paths 例 : <pre>switch(config-router-af)# maximum-paths 5</pre>	EIGRP がルート テーブルに受け入れる等コスト パスの数を設定します。指定できる範囲は 1 ～ 16 です。デフォルト値は 8 です。
ステップ 5	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。

例

次に、6 つまでの等コストパスによる、EIGRP の等コストロードバランスを IPv4 上で設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# router eigrp Test1
switch(config-router)# maximum-paths 6
switch(config-router)# copy running-config startup-config
```

hello パケット間のインターバルとホールドタイムの調整

Hello メッセージの間隔とホールドタイムは調整できます。

デフォルトでは、5 秒ごとに Hello メッセージが送信されます。ホールドタイムは Hello メッセージでアドバタイズされ、ネイバーに、送信者が有効であると見なすべき時間を示します。デフォルトの保留時間は、hello 間隔の 3 倍（15 秒）です。

hello パケットの間隔を変更するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
ip hello-interval eigrp instance-tag seconds 例 : <pre>switch(config-if)# ip hello-interval eigrp Test1 30</pre>	EIGRP ルーティング処理の hello 間隔を設定します。インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。範囲は 1 ～ 65535 秒です。デフォルトは 5 分です。

非常に輻輳した大規模なネットワークでは、デフォルトの保留時間では、全ルータがネイバーから hello パケットを受信するまでに十分な時間がない場合もあります。この場合は、ホールドタイムを増やすことを推奨します。

ホールドタイムを変更するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
ip hold-time eigrp instance-tag seconds 例 : <pre>switch(config-if)# ip hold-time eigrp Test1 30</pre>	EIGRP ルーティング処理のホールドタイムを設定します。インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。有効な範囲は 1 ～ 65535 です。

タイマー設定を確認するには、**show ip eigrp interface detail** コマンドを使用します。

スプリット ホライズンの無効化

スプリット ホライズンを使用すると、ルータによって情報元インターフェイスからルート情報がアドバタイズされないようにできます。通常はスプリット ホライズンにより、特にリンクに障害がある場合に、複数のルーティング スイッチ間での通信が最適化されます。

デフォルトでは、スプリット ホライズンはすべてのインターフェイスで有効になっています。

スプリット ホライズンを無効にするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
no ip split-horizon eigrp instance-tag 例： switch(config-if)# no ip split-horizon eigrp Test1	スプリット ホライズンを無効にします。

EIGRP の調整

オプション パラメータを設定し、ネットワークに合わせて EIGRP を調整できます。

アドレス ファミリ コンフィギュレーション モードでは、次のオプション パラメータを設定できます。

コマンド	目的
default-information originate [always route-map map-name] 例： switch(config-router-af)# default-information originate always	プレフィックス 0.0.0.0/0 を持つデフォルト ルートを発信するか、受け入れます。ルート マップが提供されると、ルート マップが true 状態となっている場合にのみデフォルト ルートが発信されます。マップ名には最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字は区別されます。
distance internal external 例： switch(config-router-af)# distance 25 100	この EIGRP プロセスのアドミニストレーティブ ディスタンスを設定します。範囲は 1 ～ 255 です。内部の値で、同じ自律システム内で学習したルートのディスタンスが設定されます（デフォルト値は 90 です）。外部の値で、外部自律システムから学習したルートのディスタンスが設定されます（デフォルト値は 170 です）。
metric maximum-hops hop-count 例： switch(config-router-af)# metric maximum-hops 70	アドバタイズされるルートに許容される最大ホップ数を設定します。ホップ数がこの最大値を超えるルートは、到達不能としてアドバタイズされます。範囲は 1 ～ 255 です。デフォルトは 100 です。

コマンド	目的
metric weights tos k1 k2 k3 k4 k5 例 : <pre>switch(config-router-af)# metric weights 0 1 3 2 1 0</pre>	EIGRP メトリックまたは K 値を調整します。EIGRP は次の式を使用して、ネットワークへの合計メトリックを決定します。 $\text{metric} = [k1 \times \text{bandwidth} + (k2 \times \text{bandwidth}) / (256 - \text{load}) + k3 \times \text{delay}] \times [k5 / (\text{reliability} + k4)]$ デフォルト値と指定できる範囲は、次のとおりです。 • TOS : 0。指定できる範囲は 0 ～ 8 です。 • k1 : 1。有効な範囲は 0 ～ 255 です。 • k2 : 0。有効な範囲は 0 ～ 255 です。 • k3 : 1。有効な範囲は 0 ～ 255 です。 • k4 : 0。有効な範囲は 0 ～ 255 です。 • k5 : 0。有効な範囲は 0 ～ 255 です。
timers active-time { time-limit disabled } 例 : <pre>switch(config-router-af)# timers active-time 200.</pre>	(照会の送信後に) ルートがアクティブ (SIA) 状態のままとなっていることを宣言するまでに、ルータが待機する時間を分単位で設定します。有効な範囲は 1 ～ 65535 です。デフォルトは 3 です。

インターフェイス コンフィギュレーション モードで、省略可能な次のパラメータを設定できます。

コマンド	目的
ip band width eigrp instance-tag bandwidth 例 : <pre>switch(config-if)# ip bandwidth eigrp Test1 30000</pre>	インターフェイス上の EIGRP の帯域幅メトリックを設定します。インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。帯域幅の範囲は、1 ～ 2,560,000,000 kbps です。
ip band width-percent eigrp instance-tag percent 例 : <pre>switch(config-if)# ip bandwidth-percent eigrp Test1 30</pre>	EIGRP がインターフェイス上で使用する可能性のある帯域幅の割合を設定します。インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。 割合の範囲は 0 ～ 100 です。デフォルトは 50 です。
no ip delay eigrp instance-tag delay 例 : <pre>switch(config-if)# ip delay eigrp Test1 100</pre>	インターフェイス上の EIGRP の遅延メトリックを設定します。インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。遅延の範囲は、1 ～ 16777215 (10 マイクロ秒単位) です。

コマンド	目的
ip distribute-list eigrp instance-tag { prefix-list name route-map name} { in out } 例 : <pre>switch(config-if)# ip distribute-list eigrp Test1 route-map EigrpTest in</pre>	このインターフェイス上の EIGRP のルータ フィルタリング ポリシーを設定します。インスタンス タグ、プレフィックス リスト名、およびルート マップ名には最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字は区別されます。
no ip next-hop-self eigrp instance-tag 例 : <pre>switch(config-if)# ip next-hop-self eigrp Test1</pre>	このインターフェイスのアドレスではなく、受信したネクストホップアドレスを使用するよう、EIGRPを設定します。デフォルトでは、このインターフェイスの IP アドレスをネクストホップアドレスに使用します。インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。
ip offset-list eigrp instance-tag { prefix-list name route-map name} { in out } offset 例 : <pre>switch(config-if)# ip offset-list eigrp Test1 prefix-list EigrpList in</pre>	EIGRP が学習したルートに、着信および発信メトリックへのオフセットを追加します。インスタンス タグ、プレフィックス リスト名、およびルート マップ名には最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字は区別されます。
ip passive-interface eigrp instance-tag 例 : <pre>switch(config-if)# ip passive-interface eigrp Test1</pre>	EIGRP hello を抑制します。これにより、EIGRP インターフェイス上でネイバーがルーティングアップデートを形成および送信することを防ぎます。インスタンス タグには英数字を

EIGRP の仮想化の設定

EIGRP 機能を有効にしていることを確認します ([EIGRP 機能の有効化](#)のセクションを参照)。

始める前に

複数の VRF を作成して、各 VRF で同じまたは複数の EIGRP プロセスを使用することもできます。VRF にはインターフェイスを割り当てます。



(注) インターフェイスの VRF を設定した後に、インターフェイスの他のすべてのパラメータを設定します。インターフェイスの VRF を設定すると、そのインターフェイスの他の設定がすべて削除されます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **vrf context** *vrf-name*
3. **router eigrp** *instance-tag*
4. **interface** *ethernet slot/port*
5. **no switchport**
6. **vrf member** *vrf-name*
7. **ip router eigrp** *instance-tag*
8. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	vrf context <i>vrf-name</i> 例 : <pre>switch(config)# vrf context RemoteOfficeVRF switch(config-vrf)#</pre>	新しい VRF を作成し、VRF 設定モードを開始します。VRN 名には最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字は区別されます。
ステップ 3	router eigrp <i>instance-tag</i> 例 : <pre>switch(config)# router eigrp Test1 switch(config-router)#</pre>	インスタンス タグを設定して、新しい EIGRP プロセスを作成します。インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。 AS 番号であると認められていない <i>instance-tag</i> を設定する場合は、autonomous-system コマンドを使用して AS 番号を明示的に設定する必要があります。そうしないと、この EIGRP インスタンスはシャットダウン状態のままになります。
ステップ 4	interface <i>ethernet slot/port</i> 例 : <pre>switch(config)# interface ethernet 1/2 switch(config-if)#</pre>	インターフェイス設定モードを開始します。? を使用すると、スロットおよびポートの範囲を検索できます。
ステップ 5	no switchport 例 : <pre>switch(config-if)# no switchport</pre>	そのインターフェイスを、レイヤ 3 ルーテッドインターフェイスとして設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	vrf member vrf-name 例 : <pre>switch(config-if)# vrf member RemoteOfficeVRF</pre>	このインターフェイスを VRF に追加します。VRF 名には最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字は区別されます。
ステップ 7	ip router eigrp instance-tag 例 : <pre>switch(config-if)# ip router eigrp Test1</pre>	このインターフェイスを EIGRP プロセスに追加します。インスタンス タグには最大 20 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字を区別します。
ステップ 8	copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config-if)# copy running-config startup-config</pre>	この設定変更を保存します。

例

次に、VRF を作成して、その VRF にインターフェイスを追加する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# vrf context NewVRF
switch(config-vrf)# router eigrp Test1
switch(config-router)# i nterface ethernet 1/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip router eigrp Test1
switch(config-if)# vrf member NewVRF
switch(config-if)# copy running-config startup-config
```

EIGRP の設定の確認

EIGRP の設定情報を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
show ip eigrp [instance-tag]	設定した EIGRP プロセスの要約を表示します。
show ip eigrp [instance-tag] interfaces [type number] [brief] [detail]	設定されているすべての EIGRP インターフェイスに関する情報を表示します。
show ip eigrp instance-tag neighbors [type number]	すべての EIGRP ネイバーに関する情報を表示します。EIGRP ネイバーの設定を確認するには、このコマンドを使用します。
show ip eigrp [instance-tag] route [ip-prefix/length] [active] [all-links] [detail-links] [pending] [summary] [zero-successors] [vrf vrf-name]	すべての EIGRP ルートに関する情報を表示します。

コマンド	目的
<code>show ip eigrp [instance-tag] topology [ip-prefix/length] [active] [all-links] [detail-links] [pending] [summary] [zero-successors] [vrf vrf-name]</code>	EIGRP トポロジ テーブルに関する情報を表示します。
<code>show running-configuration eigrp</code>	現在実行中の EIGRP コンフィギュレーションを表示します。

EIGRP 統計情報の表示

EIGRP 統計情報を表示するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>show ip eigrp [instance-tag] accounting [vrf vrf-name]</code>	EIGRP の課金統計情報を表示します。
<code>show ip eigrp [instance-tag] route-map statistics redistribute</code>	EIGRP の再配布統計情報を表示します。
<code>show ip eigrp [instance-tag] traffic [vrf vrf-name]</code>	EIGRP のトラフィック統計情報を表示します。

EIGRP の設定例

次に、EIGRP を設定する例を示します。

```
feature eigrp
interface ethernet 1/2
no switchport
ip address 192.0.2.55/24
ip router eigrp Test1
no shutdown
router eigrp Test1
router-id 192.0.2.1
```

関連項目

BGP の関連項目は、次のとおりです。

- [Route Policy Manager の設定](#)

その他の参考資料

EIGRP の実装に関する詳細情報については、次のページを参照してください。

MIB

MIB	MIB のリンク
CISCO-EIGRP-MIB	MIB を検索してダウンロードするには、次の MIB を参照してください。 動します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。